

2021 年度

学生生活調査報告書



Shizuoka University of Welfare

静岡福祉大学

目 次

あいさつ	1
序 章 調査の概要	2
第1章 学業	
1-1 大学での勉強の重要性	3
1-2 授業に対する理解	3
1-3 学修時間	3
1-4 学業についての教員との会話	4
1-5 履修科目の選択方法	4
教務委員会からのコメント	5
第2章 進路・キャリア支援	
2-1 卒業後の進路	7
2-2 取得したい資格	7
2-3 将来設計（進路）への不安	8
2-4 キャリア支援課の活用	8
2-5 キャリア支援課への要望や質問	8
入試・キャリア支援課（キャリア支援担当）からのコメント	9
第3章 学生生活	
3-1 アルバイトの状況	10
3-2 車の免許	10
3-3 同居家族の有無	11
3-4 学生食堂	11
3-5 通学時間	11
3-6 通学手段	11
3-7 大学でのボランティア活動への参加	12
3-8 学友会主催行事の満足度	12
3-9 行事に対する要望や意見	13
3-10 学友会活動への参加	13
3-11 大学生活の充実度	13
3-12 興味・関心	14
3-13 掲示板の使用	14
3-14 Eメールの利用	15
3-15 学生マナーについて	15
3-16 学内外でのトラブル	15
3-17 学生生活への悩み	16
3-18 退学について	17
3-19 オフィスアワーについて	17
3-20 学生支援総合センターについて	17
学生支援総合センターからのコメント	18
第4章 大学	
4-1 本学の理念（建学の精神）の認知	19
4-2 大学生活の満足度	19
4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見	20
学生厚生委員会からのコメント	21
総務課からのコメント	22

第5章 新型コロナウイルス感染症

5-1	新型コロナウイルス感染への不安	23
5-2	新型コロナウイルスの影響による学生生活への不安	23
5-3	新型コロナウイルスによるアルバイトへの影響	25
5-4	新型コロナウイルスの影響による心の調子や人間関係への不安	25
	学生厚生委員会からのコメント	27

社会に必要なとされる教育機関として持続的に歩み続ける

静岡福祉大学
学長 太田晴康

2021年度の学生生活調査報告書をお届けします。

在学生を対象とする学生生活調査は本学が毎年、実施する調査であり、その結果を修学環境の改善に役立たせるほか、本学の質保証に関連する分析データの一部として活用し、その結果を内外に公表するという目的をもっています。

さて、今年度の調査結果からは、本学の学生の特徴に加えて、高等教育機関として教育の質を保障するための課題も見えてきます。

まず、就学という観点から見えてくる課題がいくつかあります。「将来における大学での勉強の重要性」について、大多数の学生は重要と答えていますが、重要ではないと答えた学生もいます。少数派とはいえ教育機関として看過できないことはいうまでもありません。ソーシャルワークの現場であれば当然、どのような個別支援が可能かという問題提起、さらには社会資源の活用、連絡調整を通じて課題解決を図る営みが欠かせません。

「授業のための勉強時間」を問う項目では、7割以上が1週間あたり「1時間から5時間」の区分を選択しているだけでなく、0時間の回答が5.8%を占めています。一方、本学のシラバスでは準備学習をうたい、具体的な学習時間も明記しています。多くは1科目あたり1時間程度を事前と事後の学習にあてるよう指示していますので、大きな乖離が見られます。その解決策として学生の側のモチベーションと主体性、基礎学力のレベルを問題視し、学生に勉強の重要性を説いたところで抜本的な課題解決には至りません。一方、アルバイトの状況に目を移すと、70%以上の学生がアルバイトし、1週間のアルバイトの回数では3回がもっとも多く、アルバイト時間では1日あたり4時間、5時間、6時間の順となっています。つまり働くニーズを持つ学生が、学業とのバランスに苦慮している状況が明らかです。

「大学生生活の充実度」の項目における「大学生生活は充実していますか(楽しいですか)」という質問に対する回答結果では、80%以上の学生が「充実」「かなり充実」と回答しているだけに、事前事後の学習時間のみを喫緊の課題として取り上げるのではなく、4年間にわたるキャンパスライフのあり方について教職員が問題意識を持ち、ポトルネックや潜在化したニーズについて分析すると同時に、教職員間で情報共有する必要があります。高校を卒業し、社会にはばたくまでの4年間を高等教育という完結した教育体系のなかに位置づけるよりも、むしろ一人の若者が小学校、中学校、高等学校、大学、そして就職に向けて社会にはばたくという、一連の人生行路として把握する必要があるのではないのでしょうか。

戦後、進学率が年々上昇し、2人に1人が大学に進学するという今の時代、学ぶすべての学生に対し、その勉学意欲に応えるだけでなく、良き市民として育成する責任と機能についての自覚が高等教育機関には求められています。さらには社会に出た卒業生が再び、学習意欲を持ったとき、あるいは資格獲得を決意したとき等、人生というステージの各場面における高等教育機関の役割も今後は増大するでしょう。それだけに調査から浮き彫りとなった学生像、そしてニーズを全教職員が真摯に受けとめ、今後、目に見える形で教育の質を保証し、エビデンスとともに可視化する責任も同時に浮き彫りになったものと考えています。

序章 調査の概要

本調査は2021年12月から2022年1月に、本学学部に所属する学生を対象に行った。

調査は、1年次の必修科目である「基礎セミナーⅡ」を履修する学生155人、2年次の必修科目である「キャリア支援Ⅰ-B」を履修する学生193人、3年次の必修科目である「キャリア支援Ⅲ-B」を履修する学生137人と4年次で「キャリア支援Ⅳ-B」、「国家試験対策講座」を受講する学生166人を対象として行った。回答者の所属学科、学年、性別の内訳は、表1のとおりである。

在籍に対する回答者の割合は、1年生が77人(49.7%)、2年生が89人(46.1%)、3年生が54人(39.4%)、4年生が21人(12.7%)で、全体で241人(37.0%)が回答した。

表1 学生生活調査回答者の内訳

2022年1月31日現在

学年	学科	女子		男子		性別不明	合計	
		在籍	回答者	在籍	回答者	回答者	在籍	回答者
1	心理	42	20	46	21	0	88	41
	健康	9	9	14	13	0	23	22
	子ども	26	10	18	4	0	44	14
2	心理	63	36	35	19	0	98	55
	健康	14	7	13	4	0	27	11
	子ども	45	19	23	4	0	68	23
3	心理	41	18	40	19	0	81	37
	健康	6	1	13	0	0	19	1
	子ども	21	11	16	5	0	37	16
4	心理	45	10	31	5	0	76	15
	医療	7	0	10	0	0	17	0
	健康	16	4	18	2	0	34	6
	子ども	23	0	16	0	0	39	0
合計		358	145	293	96	0	651	241

※在籍者数には、休学者を含む

また、本調査は、学業、進路・キャリア支援、学生生活、大学に関する4つの領域と、新型コロナウイルス感染症拡大とその対策に対する影響に関するアンケートから構成され、各項目に対して、選択形式または自由記述の形式で回答を得た。その具体的な質問内容と回答について、以下の章で述べる。

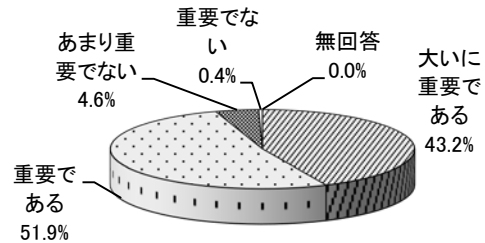
なお、以下の各質問項目の集計結果については、小数点第二位を四捨五入した結果を用いている。

第1章 学業

1-1 大学での勉強の重要性

「将来にとって、本学で勉強することはどの程度重要だと思いますか」とたずねたところ、「大いに重要である」が43.2% (104人)、「重要である」が51.9% (125人)、「あまり重要でない」が4.6% (11人)、「重要でない」が0.4% (1人)という結果であった。「大いに重要である」と「重要である」をあわせると95.1%と9割以上に達し、多くの学生が将来を考えて授業を履修し、勉強していることが分かる。

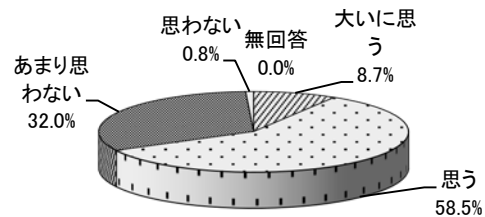
将来における大学での勉強の重要性



1-2 授業に対する理解

「本学の授業全般について、難しいと思いますか」とたずねたところ、「大いに思う」が8.7% (21人)、「思う」が58.5% (141人)、「あまり思わない」が32.0% (77人)、「思わない」が0.8% (2人)という結果であった。「大いに思う」と「思う」と回答した学生をあわせると67.2%と6割以上の学生が授業全般について難しいと回答しており、授業内容を十分に理解できていない学生が多くいる可能性がうかがえる。

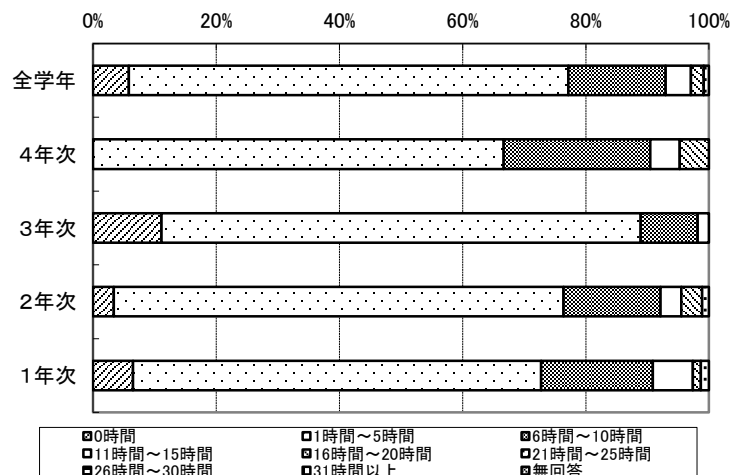
授業全般について難しいと思いますか？



1-3 学修時間

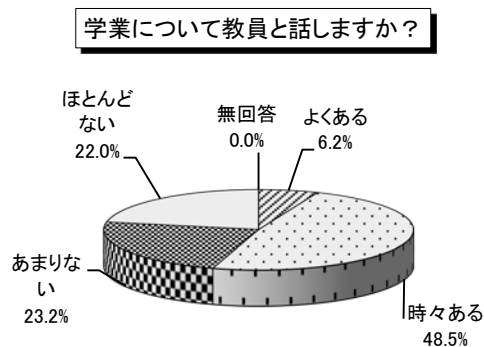
「1週間(7日間)あたり、予習・復習・課題など授業に関する勉強をどのくらいしていますか」とたずねたところ、「0時間」が5.8% (14人)、「1時間～5時間」が71.4% (172人)、「6時間～10時間」が15.8% (38人)、「11時間～15時間」が4.1% (10人)、「16時間～20時間」が2.1% (5人)、「21時間～25時間」が0.8% (2人)、「26時間～30時間」が0.0% (0人)、「31時間以上」が0.0% (0人)という結果であった。「0時間」と「1時間～5時間」をあわせると7割以上になり、勉強時間の少ない学生が多いことが示された。

授業のための勉強時間は？



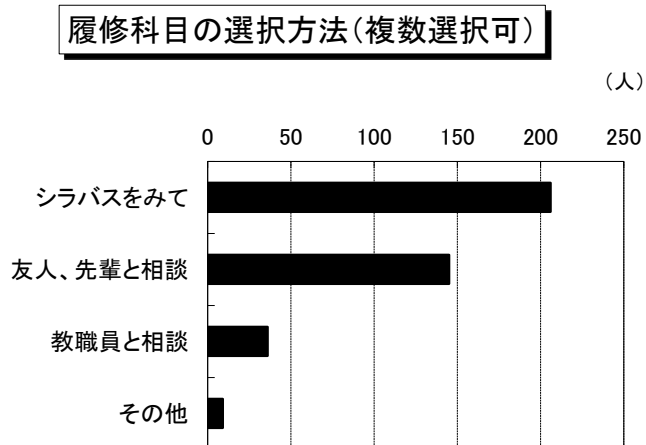
1-4 学業についての教員との会話

「学業について教員と話をすることがありますか(授業での質問を含む)」とたずねたところ、「よくある」が6.2% (15人)、「時々ある」が48.5% (117人)、「あまりない」が23.2% (56人)、「ほとんどない」が22.0% (53人) という結果であった。このように、教員との学業に関する会話は、54.7%の学生が「よくある」「時々ある」と回答した一方、45.2%の学生が「あまりない」「ほとんどない」と回答しており、二分される傾向が示された。



1-5 履修科目の選択方法

「履修する科目をどのようにして選びますか(複数回答可)」とたずねたところ、「シラバスをみて」が85.5% (206人)、「友人、先輩と相談」が60.2% (145人)、「教職員と相談」が14.9% (36人)、「その他」が3.7% (9人) という結果であった。「シラバスをみて」と「友人、先輩と相談」をあわせると97.5%と9割以上に達した。



教務委員会からのコメント

1. 学業について

1-1 大学での勉強の重要性について

大学での勉強の重要性については、「大いに重要である」と「重要である」の回答が合計 95.1%に達することから、ほぼすべての学生が大学での重要性を認識しています。これは、本学の特色である、資格取得を目指して入学してくる学生が多いことに起因しているものと思われます。

特に本年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス対策により遠隔授業の実施も行われたため、学生の学修環境にも影響が出ないよう、学内 LAN のアクセスポイントの更新をはじめとした学内の無線通信環境の整備を行ってきました。今後も遠隔授業の実施もふまえて、諸規定を検討・明確化していくとともに、学生のためのよりよい学修環境の整備を推進していきます。

1-2 授業に対する理解について

本学の授業全般の難易度について、難しいと思うかという設問に「大いに思う」と「思う」の合計が 67.2%と、3分の2の学生が難しいと感じています。学生個人の授業への取組の意識も当然影響していると思われます。また、このことは教員に対しても、学生の理解度を向上させる授業の取組身についての課題を提示しているものと考えられます。具体的な個々の課題については、「授業アンケート」による学生の理解度や学生からの要望をもとに、個々の教員が課題解決に取り組むとともに、大学側も学修環境の改善には常に課題を把握し、改善につなげる検討をすすめて、FD、SD 研修の機会にも生かしていきます。

1-3 学修時間について

予習・復習・課題などの1週間(7日間)の学習時間に対する設問では、「1時間～5時間」がいちばん多く、71.4%で、2位が「6～10時間」の15.8%でした。また、「0時間」という回答が5.8%存在しています。学習時間については、個々の学生の通学時間、部活動、ボランティア等の課外活動、アルバイトなどのさまざまな事情が影響していると思われます。

シラバスでは、各授業について予習・復習を明記しており、毎回の授業における課題提出など、一定の学習時間が大学の専門教育の理解及び国家資格取得等にとって非常に重要となります。本学としても学生の修学意欲を維持しつつ、学生一人ひとりの事情に応じた修学指導をすすめていく必要性を認識しており、授業の理解を深めるための学生の学修時間の確保についても検討をすすめていきます。

1-4 学業についての教員との会話について

学業について教員と話をすることの有無についての設問では、「よくある」、「時々ある」の合計の54.7%、「あまりない」、「ほとんどない」の合計が45.2%と拮抗しています。本学では、各学科の様々な演習科目の他、基礎セミナーや卒業研究など、少人数で実施する授業形態のものも多く、学生と教員との日常の意思疎通を学修意欲の維持・向上につなげる土壌があることから、会話の少ない状況については個別の検討の必要性を

認識しています。

1-5 履修科目の選択方法

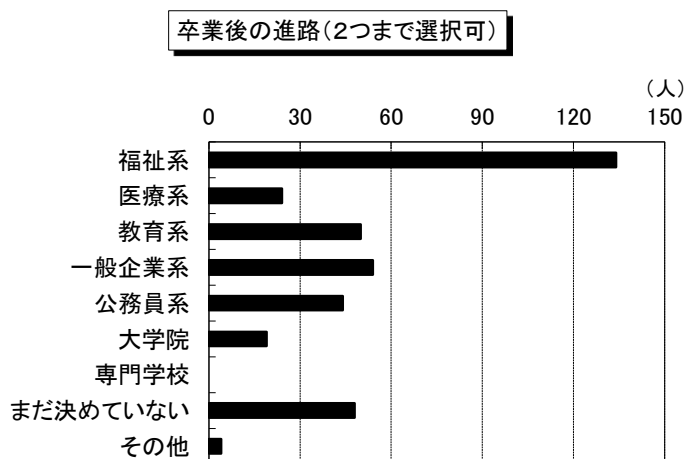
履修科目の選択方法についての設問では、85.5%の学生が、シラバスをみてと回答しています。次いで、「友人、先輩と相談」が60.2%、「教職員と相談」が14.9%でした。

履修科目の選択において、シラバスの重要性は疑いないものであり、その内容が学生の授業選択を決定する重要なファクターとなっています。従来から実施してきたシラバス内容の向上をめざしたFD研修会の実施を継続していくとともに、研修内容の向上に向けたFD委員会での検討も継続していきます。それと並行して、教職員におけるガイダンス・オリエンテーションの機会などにおける履修科目選択の説明や、相談体制などの支援についても内容の向上に努めていきます。

第2章 進路・キャリア支援

2-1 卒業後の進路

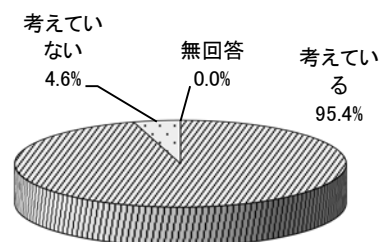
「卒業後の進路をどのように考えていますか（主なもの2つ）」とたずねたところ、「福祉系」が55.6%（134人）と半数以上を占め、つぎに「一般企業系」が22.4%（54人）、さらに「教育系」が20.7%（50人）、「公務員系」が18.3%（44人）、「医療系」が10.0%（24人）、「大学院」が7.9%（19人）、「専門学校」が0.0%（0人）、「まだ決めていない」が19.9%（48人）であった。「その他」の内容は、フリーランス、葬儀屋、自営業手伝いなどの記載がみられた。



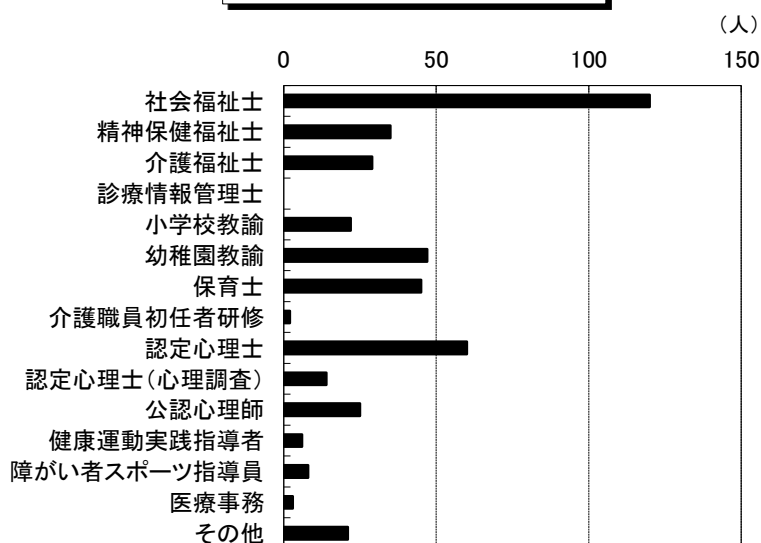
2-2 取得したい資格

「就職などにつながる資格、免許を取得したいと考えていますか」とたずねたところ、「考えている」が95.4%（230人）、「考えていない」が4.6%（11人）であった。「考えている」の具体的な内容（複数回答可）としては、「社会福祉士」が52.2%（120人）、「精神保健福祉士」が15.2%（35人）、「介護福祉士」が12.6%（29人）、「診療情報管理士」が0.0%（0人）、「小学校教諭」が9.6%（22人）、「幼稚園教諭」が20.4%（47人）、「保育士」が19.6%（45人）、「介護職員初任者研修」が0.9%（2人）、「認定心理士」が26.1%（60人）、「認定心理士（心理調査）」が6.1%（14人）、「公認心理師」が10.9%（25人）、「健康運動実践指導者」が2.6%（6人）、「障がい者スポーツ指導員」が3.5%（8人）、「医療事務」が1.3%（3人）という結果であった。「その他」の内容は、スクールソーシャルワーカー、特別支援学校教諭、福祉住環境コーディネーターなどの記載がみられた。

資格、免許の取得を考えていますか？



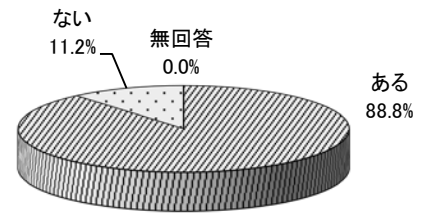
取得したい資格、免許(複数選択可)



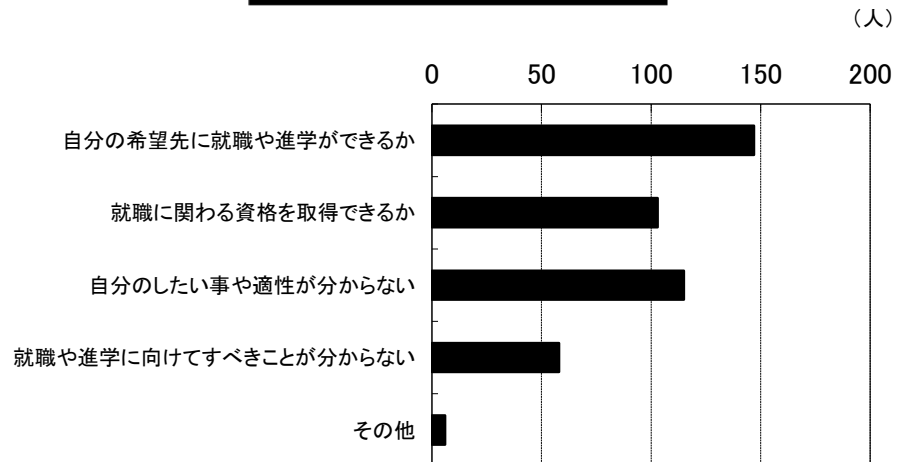
2-3 将来設計（進路）への不安

「将来設計（進路）について不安がありますか」とたずねたところ、「ある」が88.8%（214人）、「ない」が11.2%（27人）であった。「ある」の具体的な内容（複数回答可）としては、「自分の希望先に就職や進学ができるか」が68.7%（147人）、「就職に関わる資格を取得できるか」が48.1%（103人）、「自分のしたい事や適性が分からない」が53.7%（115人）、「就職や進学に向けてすべきことが分からない」が27.1%（58人）という結果であった。「その他」の内容は、持病との兼ね合い、自分がちゃんと勉強をするのかどうか、頑張り方がわからない等があげられた。

将来設計に不安がありますか？



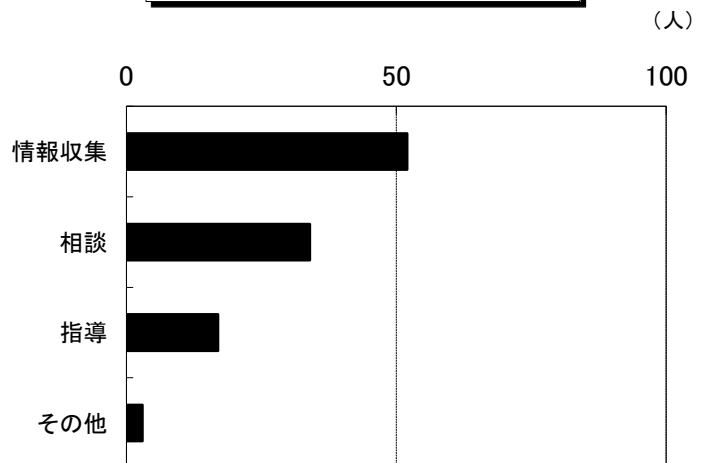
将来設計についての不安（複数選択可）



2-4 キャリア支援課の活用

「キャリア支援課を利用したことがある方は、利用した内容を教えてください（複数回答可）」とたずねたところ、「情報収集」が21.6%（52人）、「相談」が14.1%（34人）、「指導」が7.1%（17人）、「その他」は1.2%（3人）という結果であった。「その他」の内容は、キャリア支援の授業プリントの受け取り、認知症のイベントの参加があげられた。

キャリア支援課の利用内容（複数選択可）



2-5 キャリア支援課への要望や質問

6名の記述があった。要望としては、「もっとアットホームな感じにして欲しい」「キャリア支援の先生を変更して頂きたい」「キャリアの時間に教育系の就職をした人からの話を聞く時間が欲しい」などがあった。質問としては、「何の話を相談出来ますか？また学部の先生にその内容を言われますか？」などがあった。

入試・キャリア支援課(キャリア支援担当)からのコメント

2-1 卒業後の進路

新型コロナウイルス感染症禍の中で、就職環境は従前と大きく様変わりしました。就活スタイルも対面型から、オンライン合同説明会やWeb面接試験など変わってきています。こうした就職環境の変化の中で、学生の皆さんが卒業後の進路として、約55%の方が「福祉・医療」分野への就職を希望しています。一般企業の一部の業種では採用予定数の減少が見られました。一方で全国的に減少傾向であった公務員希望者については、コロナ禍の影響もあり、より安定性を求め公務員を志望する学生が増えており、本学でも18.3%の方が希望しています。在校生の皆さんは、それぞれの学年に応じて、自分自身の進路について真剣に考えていただき、将来のキャリア・プランを描いてください。そしてその到達点に向けて、何が必要なのか、何をすべきなのかをしっかりと把握してください。そこから自分自身のキャリア形成がスタートします。

2-2 取得したい資格

本学は、学生の資格取得を推奨しています。また、95.4%以上の学生は、「就職などにつながる資格を取得したいと考えている」と回答しています。資格取得という目標を立て、実行していくことで社会に役立つ実践能力を身につけるとともに、自分自身の大きな自信につながっていきます。

2-3 将来設計(進路)への不安

将来設計に関しては、88.8%の学生が就職や進学、自分の適正が不明などの不安を抱いています。皆さんが抱える「不安」については、情報不足や知識不足を克服することで多くは解消することができます。キャリア支援の授業を受講して、情報や知識を補完してください。また、キャリア支援課では、皆さんの不安に対し、情報収集の方法などの助言やさまざまな相談に対応していますので気軽にお立ち寄りください。

2-4 キャリア支援課の活用

キャリア支援課では、学生の皆さんの就職活動がスムーズに進むように、就職活動本番に向けての準備のお手伝いから、就職活動が終了するまで、求人情報等の提供やガイダンスの開催、就職相談などの就職活動全般にわたり支援をしています。今後も皆さんの期待に応えられるように、支援の在り方について、さらに向上していけるよう努めていきます。キャリア支援課は、皆さんの就職活動の応援団であり、アドバイザーであり、コンサルタントであると考えています。皆さんの希望を真摯に受け止め、実現に向けての手助けができるよう全力でサポートしていきます。

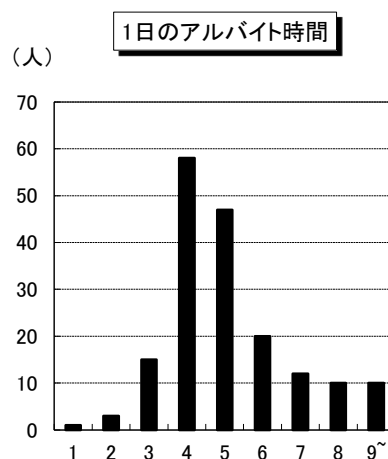
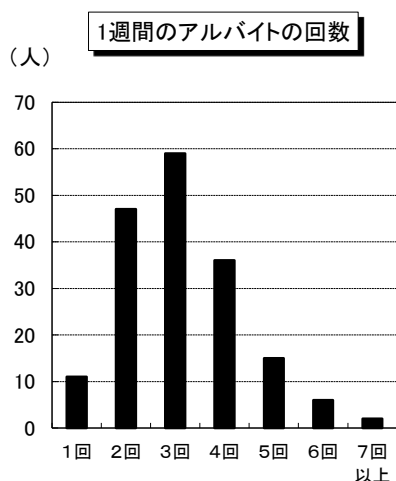
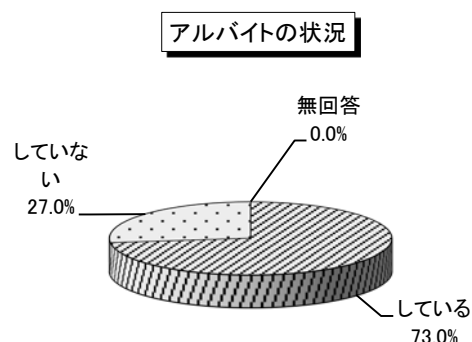
2-5 キャリア支援課への要望や質問

キャリア支援課へ多くの要望をいただき、その責任の重さを実感しております。学生の皆さんの期待に答えられるように教職員、関係機関と連携を図り、支援のあり方や手法について検討し、レベルの向上を目指します。また、キャリア課への予約については、コロナ感染予防のため「3密」を避けるためにも事前予約をお願いします。今後もできる限り学生の皆さんが利用しやすく、相談しやすい組織体制を構築していきたいと考えております。

第3章 学生生活

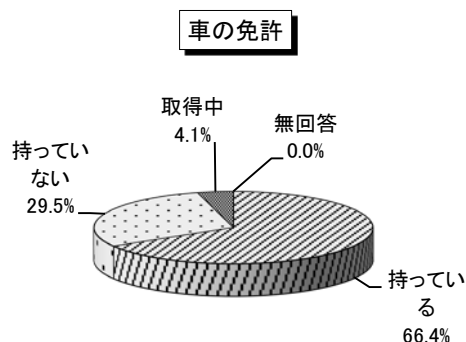
3-1 アルバイトの状況

「アルバイトをしていますか」とたずねたところ、「している」が73.0% (176人)、「していない」が27.0% (65人)であった。1週間のアルバイトの回数は3回が多く、1日に従事する時間は平均4～5時間が多かった。また、8人の学生 (176人中4.5%) に週6回以上との回答が、20人の学生 (176人中11.4%) に1日平均8時間以上との回答がみられた。一方、「していない」と回答した学生のうち、「アルバイトを希望」は69.2% (45人)、「アルバイトを希望していない」は29.2% (19人)であった。アルバイトは手軽に収入を得る方法として学生の日常生活の一部にまでなっており、それだけに安易なアルバイトが学業をおろそかにしてしまう危険性も多分にあるため注意が必要である。



3-2 車の免許

「車の免許を持っていますか」とたずねたところ、「持っている」が66.4% (160人)、「持っていない」が29.5% (71人)、「取得中 (自動車学校に通学中など)」が4.1% (10人)であり、約7割の学生が車の免許を取得していることが示された。学年によって差があると思われるが、通学や実習、就職等を考えて、卒業までに多くの学生が取得を目指している。

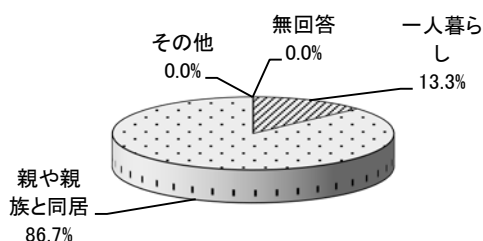


3-3 同居家族の有無

「現在、授業がある時期は一人暮らしをしていますか」とたずねたところ、「一人暮らし」13.3%

(32人)、「親や親族と同居」86.7%(209人)で、8割以上の学生が親や親族と同居をしていることが示された。

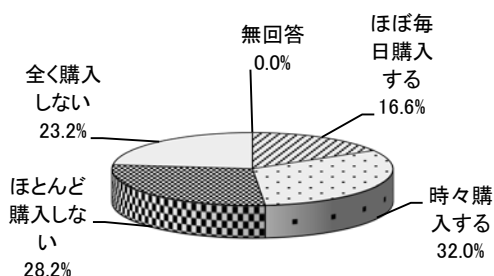
一人暮らしについて



3-4 学生食堂

「学生食堂でどのくらいの頻度で食券を購入しますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日購入する」が16.6%(40人)、「時々購入する」が32.0%(77人)、「ほとんど購入しない」が28.2%(68人)、「全く購入しない」が23.2%(56人)という結果であった。

学生食堂の食券購入について

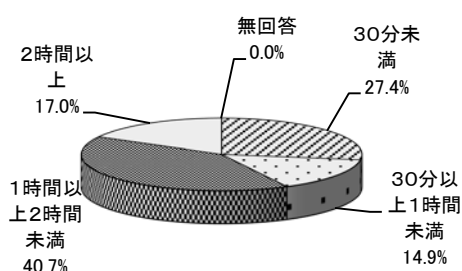


3-5 通学時間

「普段の通学時間はおよそどのくらいですか」とたずねたところ、「30分未満」が27.4%(66人)、「30分以上1時間未満」が14.9%(36人)、「1時間以上2時間未満」が40.7%(98人)、「2時間以上」が17.0%(41人)という結果であった。

通学時間が1時間以上の学生が6割弱をしめている。

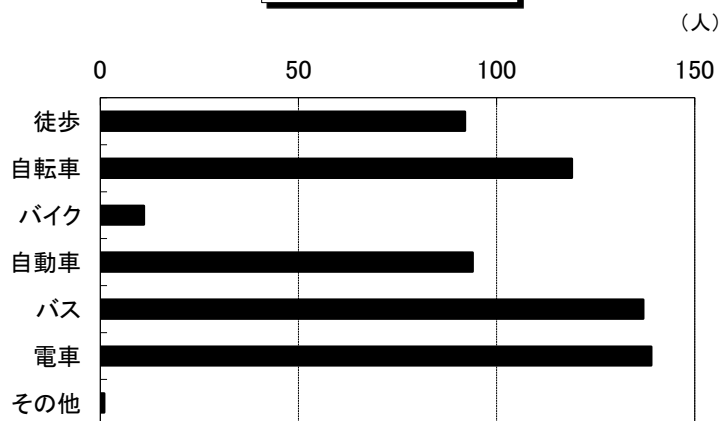
通学時間



3-6 通学手段

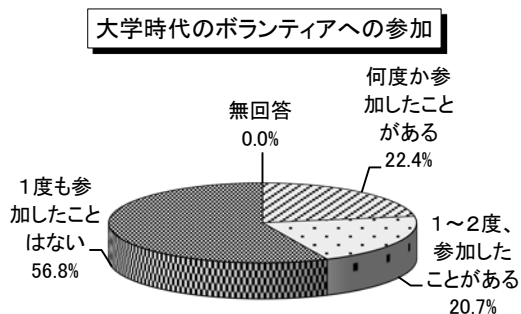
「普段、どのような通学手段をとっていますか。使っている全ての手段を教えてください」とたずねたところ、「徒歩」が38.2%(92人)、「自転車」が49.4%(119人)、「バイク」が4.6%(11人)、「自動車」が39.0%(94人)、「バス」が56.8%(137人)、「電車」が57.7%(139人)であり、電車、バス、自転車を手段としている学生が多いと共に、他大学に比べて、自動車が約4割と高いことが示された。

通学手段(複数選択可)



3-7 大学でのボランティア活動への参加

「本学に入学してから現在までの間で、ボランティア活動に参加したことがありますか」とたずねたところ、「何度か参加したことがある」22.4% (54人)、「1～2度、参加したことがある」20.7% (50人)、「1度も参加したことはない」56.8% (137人) という結果であった。ボランティア活動の参加経験がある学生は4割強であった。

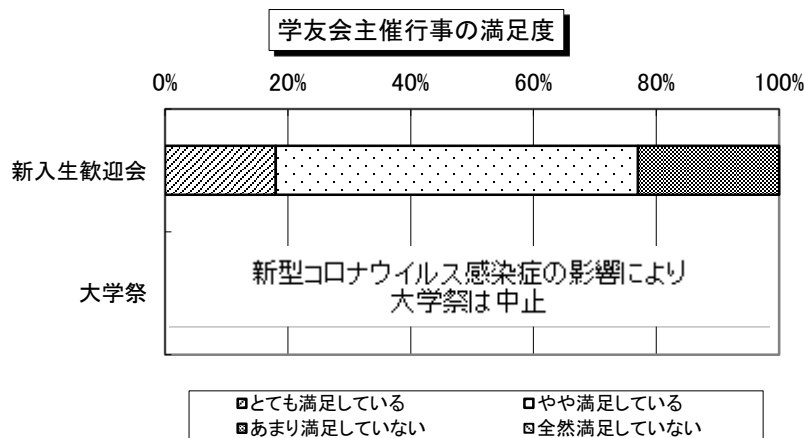


3-8 学友会主催行事の満足度

2021年度に学友会が実施した行事への参加割合についてたずねたところ、参加した学生の割合は、「新入生歓迎会」25.3%であった。

さらに、参加者に「今年、学友会主催の行事に参加した方に伺います。満足しましたか」とたずねた。「新入生歓迎会」における「とても満足している」「やや満足している」は77.0% (61人中47人) であった。

※2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大学祭は中止となりました。

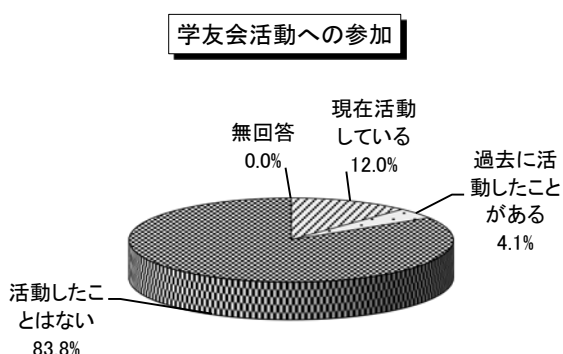


3-9 3-8 にあげた行事に対する要望や意見

9名の記述がみられた。新入生歓迎会については「明らかに活動に関係のないものを新入生歓迎会に持ち込まないよう徹底してほしい」など、クリスマス会については「もっと本学の学生全員が恩恵を受けられるようなサービスを提供してほしい」「景品をもっと増やしてほしい」などの意見がみられた。他の意見として、「静福祭含め積極的に行っていく必要があるかと思っております」「コロナが落ち着いたら行事に合わせてパーティーをやりたいだけ様々な方と仲良くなりしたい」などがみられた。

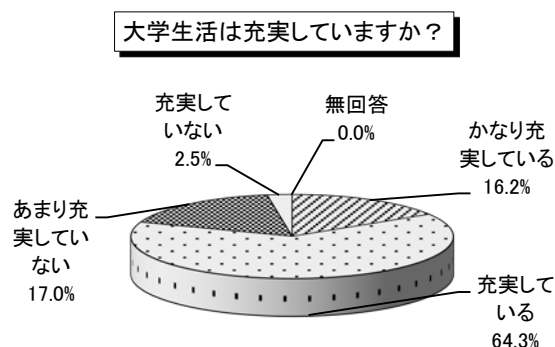
3-10 学友会活動への参加

「代議委員会、体育会・文化会、大学祭実行委員会、卒業記念委員会のいずれかで活動したことはありますか」とたずねたところ、「現在、活動している」が12.0%（29人）で、「過去に活動したことがある」が4.1%（10人）、「活動したことはない」が83.8%（202人）という結果で、学友会活動に参加経験のある学生は2割弱であることが示された。



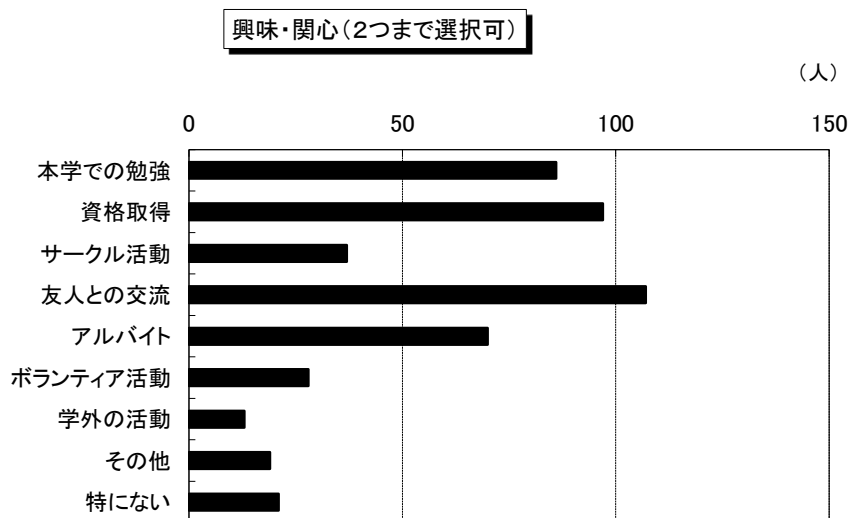
3-11 大学生生活の充実度

「大学生生活は充実していますか（楽しいですか）」とたずねたところ、「かなり充実している」が16.2%（39人）、「充実している」が64.3%（155人）、「あまり充実していない」が17.0%（41人）、「充実していない」が2.5%（6人）であり、約8割の学生に大学生生活は充実しているとの回答が示された。



3-12 興味・関心

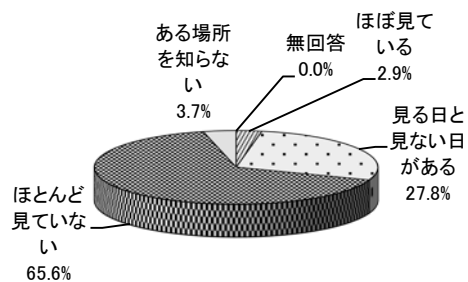
「現在、興味や関心を持って行っていることは何ですか（主なもの2つ）」とたずねたところ、8項目の中で、最も高かったのは「友人との交流」44.4%（107人）、ついで「資格取得」40.2%（97人）であり、この2点への興味・関心が他の項目に比べて高いことが示された。3番目に興味・関心が高いのは「本学での勉強」35.7%（86人）であった。



3-13 掲示板的の使用

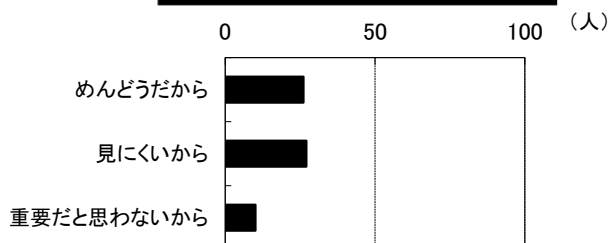
「掲示板（教務、学科、資格取得支援など）をどの程度見えていますか」とたずねたところ、「ほぼ大学に来るたびにしている」が2.9%（7人）、「大学に来ても見の日と見ない日がある」が27.8%（67人）、「大学に来てほとんど見えない」が65.6%（158人）、「掲示板のある場所を知らない（だから見えない）」が3.7%（9人）という結果であった。

掲示板をどの程度見えていますか？

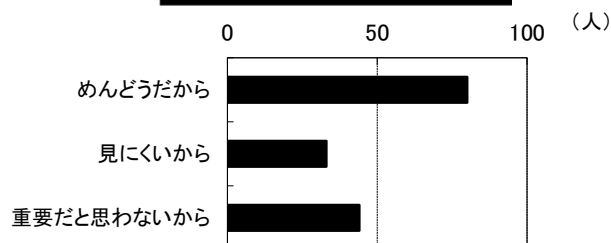


さらに「大学に来ても見の日と見ない日がある」「大学に来てほとんど見えない」と回答した方に理由をたずねた。「大学に来ても見の日と見ない日がある」と回答した人は「めんどうだから」が38.8%（26人）、「見にくいから」が40.3%（27人）、「重要だと思わないから」が14.9%（10人）であった。「大学に来てほとんど見えない」と回答した人は「めんどうだから」が50.6%（80人）、「見にくいから」が20.9%（33人）、「重要だと思わないから」が27.8%（44人）であった。

**大学に来ても見の日と見ない日がある
→ 掲示板を見ない理由**

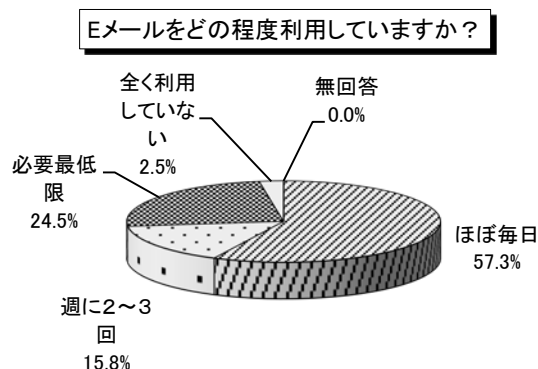


**大学に来てほとんど見えない
→ 掲示板を見ない理由**



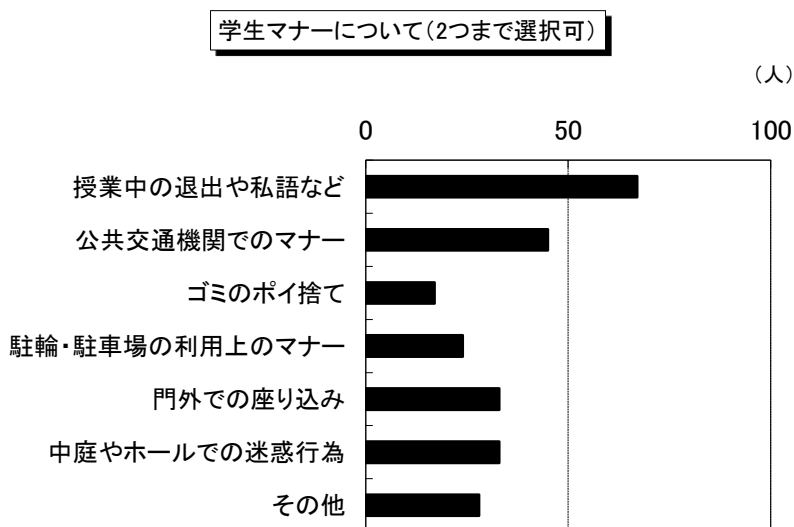
3-14 Eメールの利用

「大学のEメールをどのくらい利用（メールのチェックや送受信）していますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日」が57.3%（138人）、「週に2～3回」が15.8%（38人）、「必要最低限（授業などで）」が24.5%（59人）、「全く利用していない」が2.5%（6人）という結果であった。



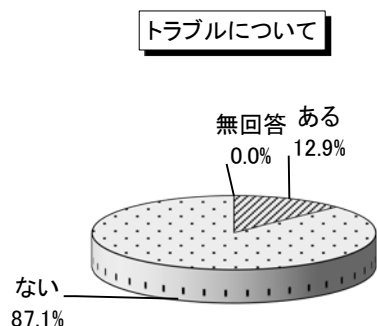
3-15 学生マナーについて

「本学の学生が改善したほうがよいと思うマナーはありますか（主なもの2つ選択）」とたずねたところ、「ある」が55.2%（133人）、「ない」が44.8%（108人）という結果であった。改善すべき点については、「授業中の退出や私語など」が50.4%（67人）、「公共交通機関でのマナー」が33.8%（45人）、「ゴミのポイ捨て」が12.8%（17人）、「駐輪・駐車場の利用上のマナー」が18.0%（24人）、「門外での座り込み」が24.8%（33人）、「中庭やホールでの迷惑行為」が24.8%（33人）、「その他」が21.1%（28人）という結果であった。「その他」の内容には、「講義中に堂々とご飯を食べてる人がいて、その匂いで集中力がそがれる」「門外での喫煙」「食堂でアクリル板を外して集団で話している人たちがいた」等の記載内容があった。



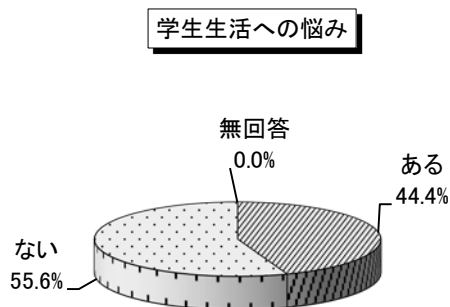
3-16 学内外でのトラブル

「本学に入学してから現在までの間に、学内外でトラブルにあったことがありますか」とたずねたところ、「ある」が12.9%（31人）、「ない」が87.1%（210人）であった。具体的なトラブルの内容（複数回答可）は、高い順に「交通事故」が25.8%（8人）、「ハラスメント（嫌がらせ）」が19.4%（6人）、「宗教勧誘・マルチ商法」が16.1%（5人）、「盗難」が12.9%（4人）、「ストーカー行為・デートDV・脅迫」が3.2%（1人）、「悪徳セールス」は0.0%（0人）であった。「その他」への記載は盗撮、電車内でのチカン、人間関係の記載がみられた。

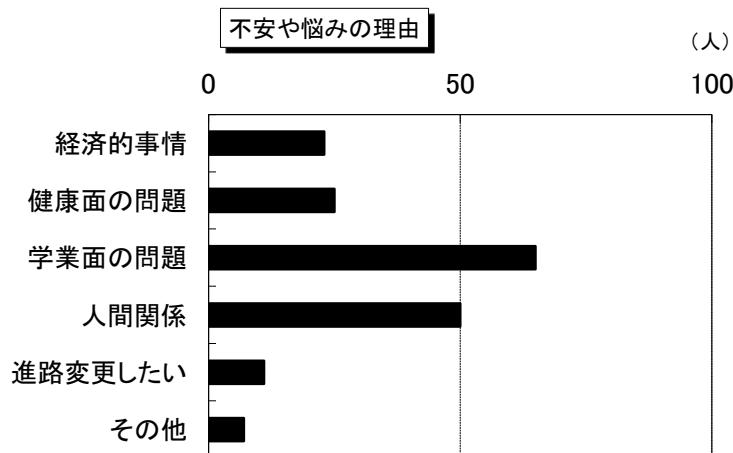
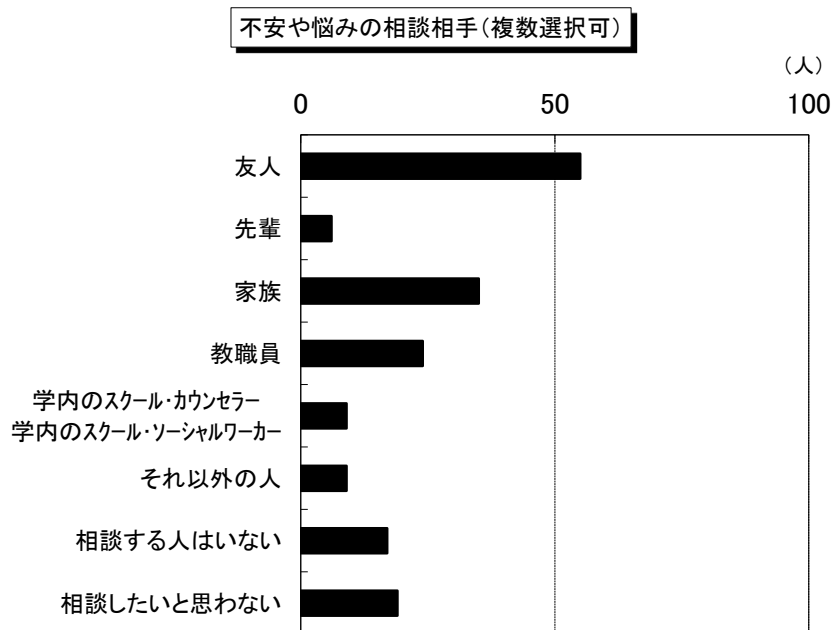


3-17 学生生活への悩み

「現在、学生生活に関して悩みがありますか」とたずねたところ、「ある」が44.4%（107人）、「ない」が55.6%（134人）であった。「ある」の回答者に、「悩みを誰かに相談していますか」とたずねたところ、「友人」51.4%（55人）と「家族」32.7%（35人）が多く、ほかに「先輩」5.6%（6人）、「教職員」22.4%（24人）、「学内のスクール・カウンセラー、学内のスクール・ソーシャルワーカー」8.4%

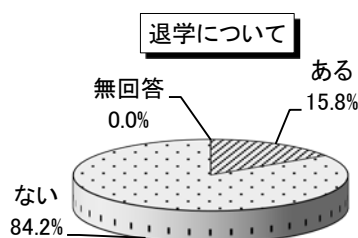


（9人）、「それ以外の人」8.4%（9人）であった。その一方、「相談する人はいない」15.9%（17人）、「相談したいと思わない」17.8%（19人）との回答もみられた。また、「ある」の回答者に「内容」をたずねたところ、高い順に「学業面の問題」60.7%（65人）、「人間関係」46.7%（50人）、「健康面の問題」23.4%（25人）、「経済的事情」21.5%（23人）、「進路変更したい」10.3%（11人）、「その他」6.5%（7人）となった。



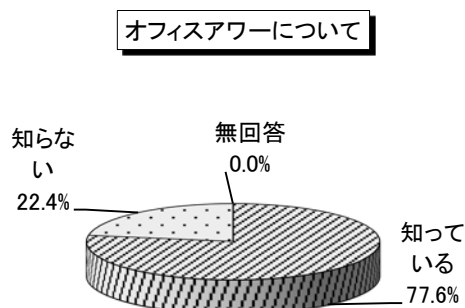
3-18 退学について

「本学を退学することについて考えたことがありますか」とたずねたところ、「ある」15.8% (38人)、「ない」84.2% (203人)であった。退学を考えた理由は、高い順に「学業面の問題」、「人間関係」がともに42.1% (16人)、「進路変更したい」が31.6% (12人)、「経済的事情」が28.9% (11人)、「健康面の問題」13.2% (5人)であった。「その他」の内容には、「自分のやりたいことが明確ではないから」「高いお金を払ってるのに何もためになっていかなかったりしてお金の無駄に感じたから」「家庭の事情」等の記載がみられた。



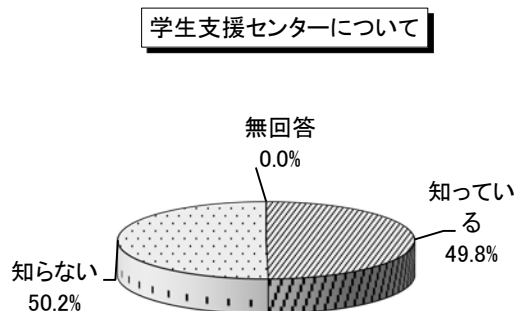
3-19 オフィスアワーについて

「オフィスアワーを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」77.6% (187人)、「知らない」22.4% (54人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかについてたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は28.9% (54人)であった。



3-20 学生支援総合センターについて

「学生支援総合センターを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が49.8% (120人)、「知らない」が50.2% (121人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかをたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は17.5% (21人)であった。



学生支援総合センターからのコメント

3-16 学内外でのトラブルについて

本学に入学してから現在までに学内外でトラブルにあったことが「ある」と回答した学生が 12.9%と昨年より増加傾向になっております。また昨年同様に「交通事故」が最も多く次に「ハラスメント（嫌がらせ）」となっています。次に「盗難」「宗教勧誘・マルチ商法」そして「ストーカー行為・デートDV・脅迫」の順となっています。

学生支援総合センターでは、よりよい学生生活を送るために学生同士の人間関係を含め困ったことがありましたら、各教員のオフィスアワーや基礎セミナーのクラス担当やゼミの教員などにも相談し、早期の解決をはかって欲しいと思います。個別の相談が必要な場合には、ソーシャルワーカー(SSW)や臨床心理士(カウンセラーへの面談が可能です。悩みや不安を解決できるような体制を取り、各部署とも連携しサポートいたします。

3-17 学生生活への不安や悩み

学生生活に関して悩みがありますかとの質問には、「ある」が 44.4%となっており、その内容としては、学業面の問題に次いで人間関係の悩みとなっています。その不安や悩みについては「友人に相談している」が半数以上となっておりますが、ひとりで悩みを抱え込まず学生支援総合センターの活用と専門職のソーシャルワーカーや臨床心理士へのご相談をお勧めいたします。

3-18 退学について

本学を退学することについて考えたことがありますかとの質問には「ある」15.8%が回答しています。退学について考えた理由に「学業面の問題」が多く次に「人間関係」となっております。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の観点から、Zoomを使用した遠隔授業などの取り組みがありました。学生にも多くの戸惑いもあったと思います。そのため学生支援総合センターでは、保健室を通して相談やメールでの相談体制を取ってきました。学生と共に考える場所が学生支援総合センターの役割になります。

3-20 学生支援総合センターについて

学生支援総合センターを知っていますかという質問に「知っている」49.8%で「知らない」が 50.2%となっております。今年度は、1年生入学時のオリエンテーションにて、学生支援総合センターの案内パンフレットを使用し説明を行いました。また、AAA や本学のHPにも掲載いたしました。さらに学生の皆さんに周知できるよう方法を検討したいと考えています。

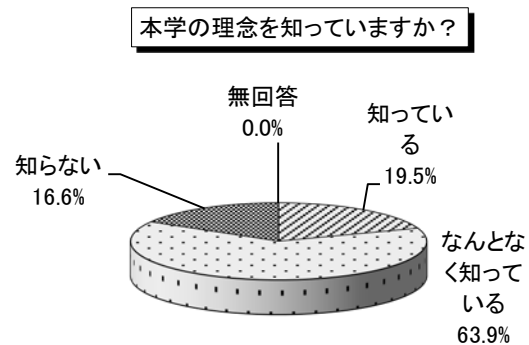
学生支援総合センターは、学生の皆さんが気軽に立ち寄れるようなシステムづくりと身近な存在となるよう、さらなる学生支援総合センターの活動に取り組みたいと思います。

第4章 大学

4-1 本学の理念（建学の精神）の認知

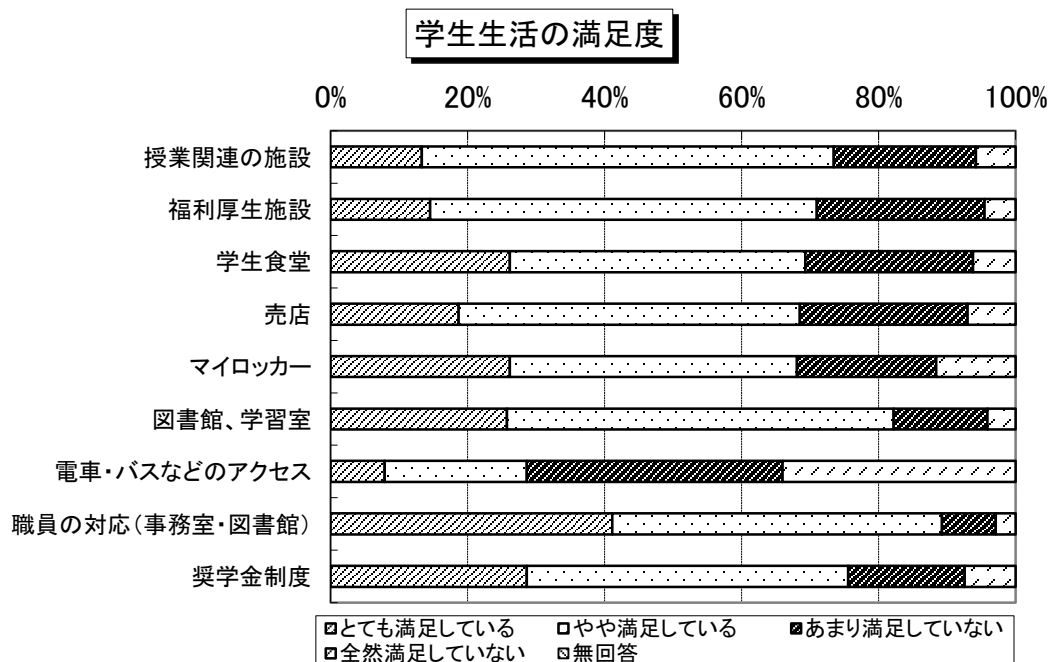
「本学の理念（建学の精神）を知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が19.5%（47人）、「なんとなく知っている」が63.9%（154人）、「知らない」が16.6%（40人）であった。

大学ではその方法として、学内の掲示、大学ホームページ等を通じて、周知を行っている。しかし、2割弱が「知らない」と回答しており、さらに学生の認知度を高める工夫が必要である。



4-2 大学生活の満足度

「次にあげた項目について、どの程度満足していますか」とたずねたところ、以下の結果が得られた。



「教室、体育館などの授業関連の施設」については、「とても満足している」13.3%（32人）、「やや満足している」60.2%（145人）、「あまり満足していない」20.7%（50人）、「全然満足していない」5.8%（14人）という結果であった。

「トイレ、学生ホール、部室などの福利厚生施設」については、「とても満足している」14.5%（35人）、「やや満足している」56.4%（136人）、「あまり満足していない」24.5%

(59人)、「全然満足していない」4.6% (11人) という結果であった。

「学生食堂」については、「とても満足している」26.1% (63人)、「やや満足している」43.2% (104人)、「あまり満足していない」24.5% (59人)、「全然満足していない」6.2% (15人) という結果であった。

「売店」については、「とても満足している」18.7% (45人)、「やや満足している」49.8% (120人)、「あまり満足していない」24.5% (59人)、「全然満足していない」7.1% (17人) という結果であった。

「マイロッカー」については、「とても満足している」26.1% (63人)、「やや満足している」41.9% (101人)、「あまり満足していない」20.3% (49人)、「全然満足していない」11.6% (28人) という結果であった。

「図書館、学習室」については、「とても満足している」25.7% (62人)、「やや満足している」56.4% (136人)、「あまり満足していない」13.7% (33人)、「全然満足していない」4.1% (10人) という結果であった。

「本学への電車・バスなどのアクセス」については、「とても満足している」7.9% (19人)、「やや満足している」20.7% (50人)、「あまり満足していない」37.3% (90人)、「全然満足していない」34.0% (82人) という結果であった。

「事務室や図書館などにいる職員の対応」については、「とても満足している」41.1% (99人)、「やや満足している」48.1% (116人)、「あまり満足していない」7.9% (19人)、「全然満足していない」2.9% (7人) という結果であった。

「奨学金制度」については、「とても満足している」28.6% (69人)、「やや満足している」46.9% (113人)、「あまり満足していない」17.0% (41人)、「全然満足していない」7.5% (18人) という結果であった。

以上のように、「大学生活の満足度」の全項目について比較すると、「大学への電車・バスなどのアクセス」についての満足度は際立って低い。

4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見

施設や制度、対応への要望や意見については、39名の記述がみられた。

最も多くの要望があったのは「バスの本数を増やして欲しい」「可能ならばスクールバスの運営をお願いしたいです」などのバスに関する内容と、「ぐらついている椅子や机を改善してほしい」「暖房の効きをもっとよくして欲しい」など、施設の老朽化や改善を訴える内容がともに10件ずつであった。

また、複数名から要望や意見があった内容としては、「学内WiFi(スマホ)を常設して欲しい」など通信環境の改善を要望する意見が7件、「食堂は通っている学生の数に対して席や広さが足りてない」など食堂の狭さを訴える意見が3件、段差解消等のバリアフリー化を行ってほしい、職員の学生への対応を改善してほしい、喫煙スペースの場所やマナーについて、施設費をきちんと使用してほしい、空き教室での交流スペース拡充してほしい、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底してほしいといった要望や意見がそれぞれ2件ずつ見られた。

学生厚生委員会からのコメント

学生厚生委員会は、学友会（代議員会・体育会文化会・学祭実行委員会・卒業行事委員会等）に関する支援を行い、また学生の皆さんがより良い大学生活を送ることができるように、さまざまな活動の支援や環境面の改善を目指して取り組んでいます。

第3章「学生生活」について

2021年度も新型コロナウイルス感染拡大（以下コロナ禍）の影響を受けています。

3-1「アルバイト」では、コロナ禍の影響がなかった2019年度は78.4%の学生が「している」と回答していましたが、コロナ禍以降の2020年度73.9%、2021年度73.0%と微減傾向にあります。

3-4「学生食堂」では、「ほぼ毎日購入する」「時々購入する」の割合が、2019年度54.3%だったのに対し、2020年度47.1%、2021年度48.6%と微減しています。「学生食堂」では感染予防のためアクリル板を設置したことで、より安心して活用できるようにしていますが、「座る席が足りない」との声もあり、引き続きの課題になっています。

3-6「通学手段」では、自動車での通学の割合が2019年度34.1%でしたが、2020年度37.4%、2021年度39.0%と微増しています。感染予防として人との接触を避けるため、自動車で通学している人が増えていると考えられます。一方で3-16「学内外のトラブル」の「交通事故」は2019年度34.8%、2020年度28.6%、2021年度25.8%と減少傾向になっています。今後も自動車で通学する学生は増加することも考えられるので、引き続きの交通安全指導が必要になると考えられます。

3-7「大学でのボランティア活動への参加」では、「一度も参加したことはない」が2019年度は42.8%でしたが、2020年度57.9%、2021年度56.8%と増加しており、コロナ禍の影響で参加できていない状況があります。コロナ禍においてもボランティアに参加できるようにすることは、引き続きの課題になります。

3-8「学友会主催行事の満足度」では、新入生歓迎会への参加が2019年度42.1%、2020年度22.2%、2021年度25.3%とコロナ禍以降減少しています。一方で「満足度」については、8割近くと高い結果になっており、企画している学友会のメンバーが感染予防をとりながらも実施している効果と言えます。大学祭については2020年度中止、2021年度延期となっており、コロナ禍で学友会活動も縮小している状況です。

このように「学生生活」がコロナ禍の影響を受けている結果になっていますが、3-11「学生生活の充実度」は2020・2021年度ともに約8割が「かなり充実している」「充実している」と回答しており、コロナ禍の影響は受けながらも充実した学生生活をおくっていることがわかる結果でした。コロナ禍の中でも学生生活を充実することができるよう、委員会としても引き続き支援していきます。

第4章「大学」について

4-2「大学生活の満足度」では、2020年度と比較すると、各項目でほぼ同様の結果になっています。「職員の対応」についての満足度（とても満足している・やや満足している）が、2020年度52.5%でしたが、2021年度は89.2%と増加していました。

一方で「本学への電車・バスなどのアクセス」は2020年度31.3%、2021年度28.6%と満足度がさらにさがっており引き続きの課題となっています。4-3「大学への意見・要望」の

中でも「学校直通のバスがもっとあるとよい」などの意見が多くありました。

最後に、学生の皆さんには学友会活動へ積極的、主体的に参加し、その中から自分たちの要望や声が反映されるような大学生活にさせていただくことを望みます。

総務課からのコメント

(1) 公共交通機関のアクセスについて

焼津駅及び西焼津駅からのアクセスの向上については現在、焼津市を含め、しずてつジャストラインと協議を行っております。通学環境の改善に向け、粘り強く交渉しているところです。

バスの運行時間については、引き続き授業開始及び終了の時刻に合わせた路線バスの運行に重点を置き、調整に努めてまいります。

また、超低床ノンステップバスも運行しており、電動車いすの利用学生もバスを利用することが可能となっております。そして、バスの乗降時の安全確保のため警備員の見回りの強化を行っております。

(2) 学内施設の改善・充実について

今年度は、大規模な改修として教室棟外壁の改修を行いました。また、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、分散授業による遠隔授業を行う通信設備や機器の整備を行いました。その他、食堂や学生ホールの座席の仕切りをアクリルパーテーションに変更、消毒液及び除菌シートの設置を行っております。換気の面でも網戸を設置し、窓の開放を行い新型コロナウイルス感染予防に努めました。今後も新型コロナウイルス感染予防危険性が無くなるまで、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

次年度以降につきましても、新型コロナウイルス対策に伴う新しい生活様式に考慮した環境整備を行うとともに、照明のLED化及びバリアフリー化の推進などを行い、出来る限り学生の皆さんのご要望に沿える環境整備に努めていきたいと思っております。

学生駐車場につきましては、アスファルト舗装の要望もありますが、借地ということもありアスファルト舗装は難しいため、地面を固めた上で均し、駐車枠の整備を行い利用しやすいよう定期的に整備を行っております。

対応可能なものについては速やかに対応し、大規模な工事や費用が必要な改善については優先順位を考え長期計画を策定し、一つずつ改善していきたいと思っております。

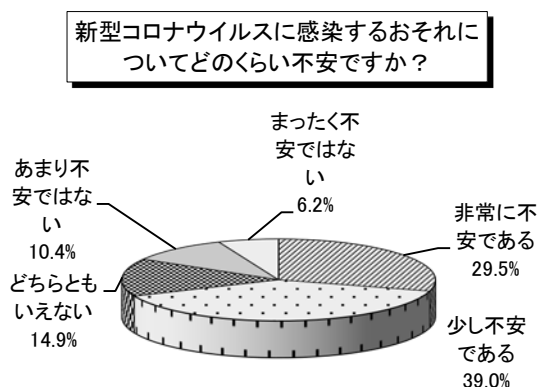
(3) 学食・売店の向上について

学生の皆さんからの意見につきまして、学食・コンビニ改善会議で出来る限り反映できるように努めます。

第5章 新型コロナウイルス感染症

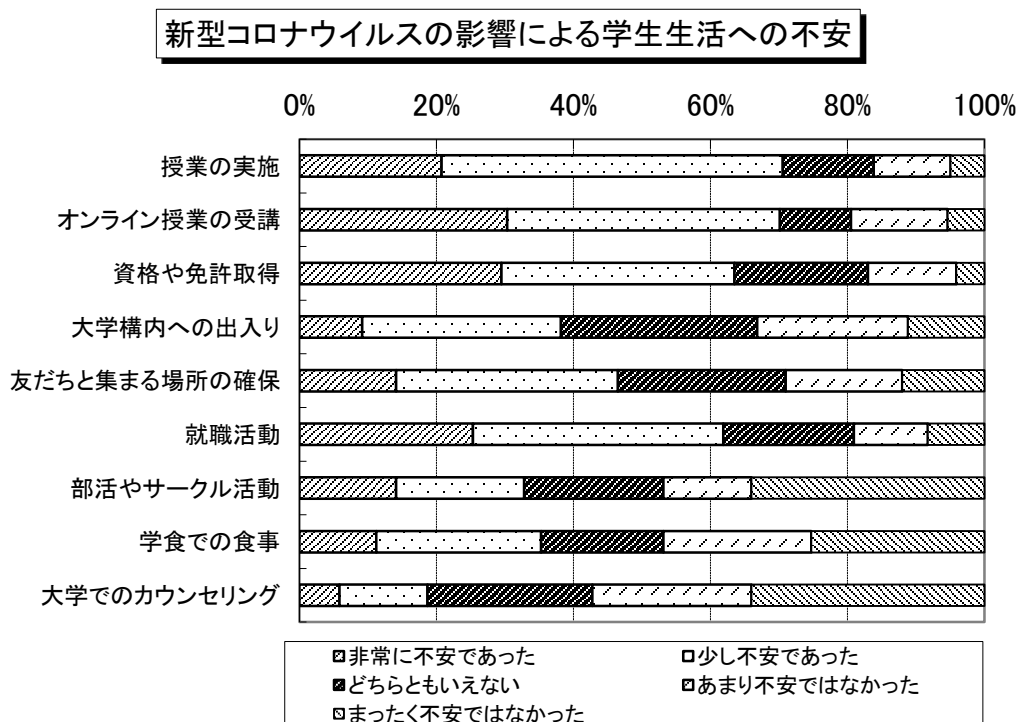
5-1 新型コロナウイルス感染への不安

「新型コロナウイルスに感染するおそれについてどのくらい不安ですか（感染したらどうするかではなく、感染することについて不安）」とたずねたところ、「非常に不安である」29.5% (71人)、「少し不安である」39.0% (94人)、「どちらともいえない」14.9% (36人)、「あまり不安ではない」10.4% (25人)、「まったく不安ではない」6.2% (15人) という結果であり、7割弱の学生が感染することについて不安であるとの回答が示された。



5-2 新型コロナウイルスの影響による学生生活への不安

「新型コロナウイルスの影響により、あなたの学生生活に関して、次のようなことはどのくらい不安でしたか」とたずねたところ、以下の結果が得られた。



「きちんと授業が実施されるのか」については、「非常に不安であった」20.7% (50人)、「少し不安であった」49.8% (120人)、「どちらともいえない」13.3% (32人)、「あまり不安ではなかった」11.2% (27人)、「まったく不安ではなかった」5.0% (12人) という結果であった。

「オンライン授業が無事に受けられるのか」については、「非常に不安であった」30.3% (73人)、「少し不安であった」39.8% (96人)、「どちらともいえない」10.4% (25人)、「あまり不安ではなかった」14.1% (34人)、「まったく不安ではなかった」5.4% (13人)という結果であった。

「予定どおり資格や免許が取得できるか」については、「非常に不安であった」29.5% (71人)、「少し不安であった」34.0% (82人)、「どちらともいえない」19.5% (47人)、「あまり不安ではなかった」12.9% (31人)、「まったく不安ではなかった」4.1% (10人)という結果であった。

「大学構内に入出りできるのか」については、「非常に不安であった」9.1% (22人)、「少し不安であった」29.0% (70人)、「どちらともいえない」28.6% (69人)、「あまり不安ではなかった」22.0% (53人)、「まったく不安ではなかった」11.2% (27人)という結果であった。

「友達と集まる場所をどうやって確保するのか」については、「非常に不安であった」14.1% (34人)、「少し不安であった」32.4% (78人)、「どちらともいえない」24.5% (59人)、「あまり不安ではなかった」17.0% (41人)、「まったく不安ではなかった」12.0% (29人)という結果であった。

「就職活動ができるかどうか」については、「非常に不安であった」25.3% (61人)、「少し不安であった」36.5% (88人)、「どちらともいえない」19.1% (46人)、「あまり不安ではなかった」10.8% (26人)、「まったく不安ではなかった」8.3% (20人)という結果であった。

「部活やサークル活動ができるのか」については、「非常に不安であった」14.1% (34人)、「少し不安であった」18.7% (45人)、「どちらともいえない」20.3% (49人)、「あまり不安ではなかった」12.9% (31人)、「まったく不安ではなかった」34.0% (82人)という結果であった。

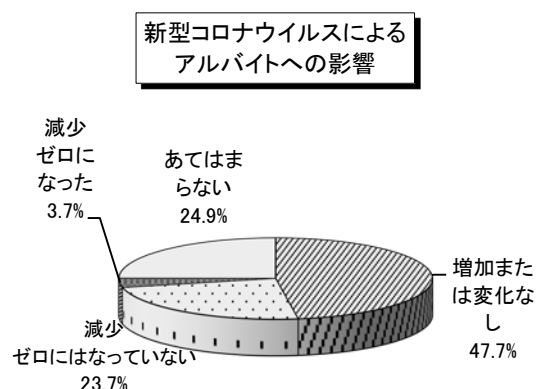
「学食で食事ができるか」については、「非常に不安であった」11.2% (27人)、「少し不安であった」24.1% (58人)、「どちらともいえない」17.8% (43人)、「あまり不安ではなかった」21.6% (52人)、「まったく不安ではなかった」25.3% (61人)という結果であった。

「大学でのカウンセリングが受けられるのか」については、「非常に不安であった」5.8% (14人)、「少し不安であった」12.9% (31人)、「どちらともいえない」24.1% (58人)、「あまり不安ではなかった」23.2% (56人)、「まったく不安ではなかった」34.0% (82人)という結果であった。

以上のように、「新型コロナウイルスの影響による学生生活への不安」の全項目について比較すると、「きちんと授業が実施されるのか」「オンライン授業が無事に受けられるのか」の両項目で7割強の学生が不安であると回答した。

5-3 新型コロナウイルスによるアルバイトへの影響

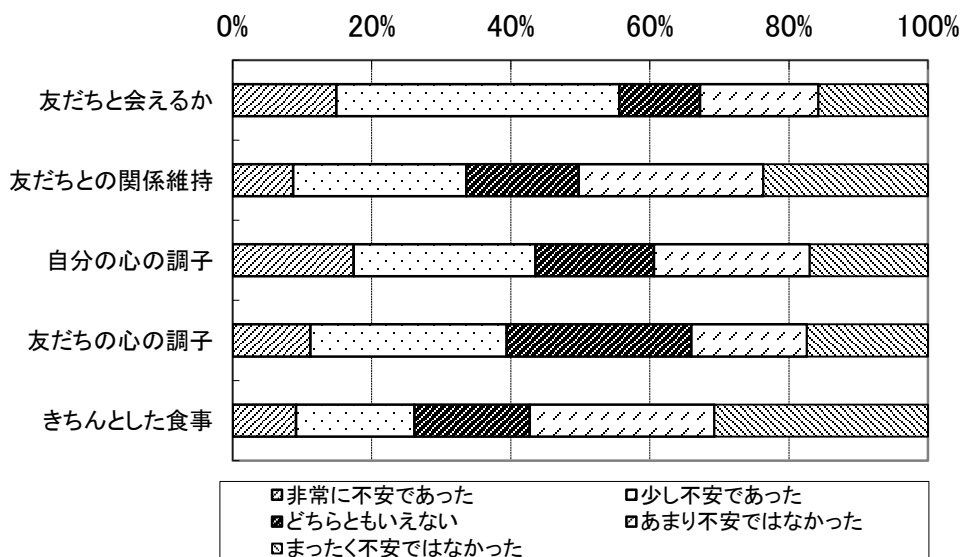
「あなたのアルバイト収入の状況は、新型コロナウイルスの感染症によって、どのような影響を受けましたか」とたずねたところ、「増加または変化なし」47.7% (115人)、「減少ゼロにはなっていない」23.7% (57人)、「減少ゼロになった(雇用先の休業ないし失業)」3.7% (9人)、「あてはまらない(アルバイトをもととしていない)」24.9% (60人)、という結果であり、3割弱の学生がアルバイト収入の現象を受けたとの回答が示された。



5-4 新型コロナウイルスの影響による心の調子や人間関係への不安

「新型コロナウイルスの影響により、あなたのこころの調子や人間関係について、次のようなことはどのくらい不安ですか」とたずねたところ、以下の結果が得られた。

新型コロナウイルスの影響による心の調子や人間関係への不安



「友だちと会えるか」については、「非常に不安である」14.9% (36人)、「少し不安である」40.7% (98人)、「どちらともいえない」11.6% (28人)、「あまり不安ではない」17.0% (41人)、「まったく不安ではない」15.8% (38人) という結果であった。

「友だちとの関係を維持できるか」については、「非常に不安である」8.7% (21人)、「少し不安である」24.9% (60人)、「どちらともいえない」16.2% (39人)、「あまり不安ではない」26.6% (64人)、「まったく不安ではない」23.7% (57人) という結果であった。

「自分の心の調子が悪くならないか（もう悪くなっている場合を含む）」については、「非常に不安である」17.4%（42人）、「少し不安である」26.1%（63人）、「どちらともいえない」17.0%（41人）、「あまり不安ではない」22.4%（54人）、「まったく不安ではない」17.0%（41人）という結果であった。

「友だちの心の調子が悪くならないか（もう悪くなっている場合を含む）」については、「非常に不安である」11.2%（27人）、「少し不安である」28.2%（68人）、「どちらともいえない」26.6%（64人）、「あまり不安ではない」16.6%（40人）、「まったく不安ではない」17.4%（42人）という結果であった。

「きちんとした食事がとれるか」については、「非常に不安である」9.1%（22人）、「少し不安である」17.0%（41人）、「どちらともいえない」16.6%（40人）、「あまり不安ではない」26.6%（64人）、「まったく不安ではない」30.7%（74人）という結果であった。

以上のように、「新型コロナウイルスの影響による心の調子や人間関係への不安」の全項目について比較すると、「友だちと会えるか」について不安を感じる学生がやや高く見られた。

学生厚生委員会からのコメント

2021年度の調査では、「第5章 新型コロナウイルス感染症」を追加しました。今回の結果から、学生がコロナ禍の中でどのような不安を抱えているのかが見えてきました。5-1「新型コロナウイルス感染への不安」では7割弱が、5-2「学生生活への不安」では、授業の実施やオンライン授業の受講について7割強の学生が不安を感じていました。また、資格取得や就職活動についての不安も6割弱であり、学業やキャリアに対して不安を抱えている傾向が強いことが明らかになりました。

5-4「心の調子や人間関係」の不安では、友だちと会えるかについて不安に感じている学生が55.6%とやや多い結果でした。また、自分の心の調子についても、43.5%が不安があると回答していました。コロナ禍が長期化している状況で、さまざまな不安を抱えながら学生生活を過ごしている状況でした。

大学でもアクリル板の設置や健康確認票の導入、手洗い・消毒の徹底等、さまざまな感染予防対策を行っています。感染予防対策だけではなく、コロナ禍における学生への不安等について関係部署で共有し、対応していくことが課題になると考えています。